

# 過疎地域における高齢者福祉とソーシャルキャピタル

## －韓国莞島郡における高齢者福祉施設を事例に－

北海道大学 金昌震

### 1. 目的

本研究では過疎化と少子高齢化がますます深刻化する韓国の島嶼地域で生活する高齢者生活実態と地域福祉支援の取組みを調べる。そのため、韓国の最南端の島村である莞島郡（人口約5万人、高齢化率27.4%）において高齢者福祉施設の支援サービスとその施設におけるネットワークがどのような役割を果たしているのかを分析する。また、この研究から得られた識見を通して過疎地域の高齢者ケア・支援の改善に向けた施策を検討することが本稿の目的である。

### 2. 方法

調査地は莞島郡にある5つの高齢者余暇福祉施設（「老人福祉館」1箇所、「敬老堂」4箇所）であり、調査方法としては施設の利用者を主な対象とした質的研究を実施した。調査施設である「老人福祉館（以下、A施設）」を3回訪ね、施設利用者8人・職員・事務局長などに半構造化インタビューで調査を行った。また、「老人福祉館」からの協力を得て、4つの敬老堂（B施設・C施設・D施設・E施設）でそれぞれ3人の高齢者にインタビューを実施した。また、許可を得て動画資料をとりながら参与観察も行った。さらに、村の事情に詳しい莞島邑の里長に、村の歴史や変遷について話を聞いた。分析の枠組みとしては自助・互助・公助に新しく共助・商助を加えた「五助」（金子、2011）の概念を援用するが、今回の報告では「共助・互助」に焦点を当てて分析する。また、施設間・高齢者間のネットワークの性質を社会関係資本論の枠組みで分析し考察を試みる。

### 3. 調査結果と考察

「老人福祉館」は、5階建ての大規模な施設で地域の中心部に位置し、様々な余暇福祉の機能を遂行している。例えば、55の有人島に散在している敬老堂に地域の余暇講師を派遣し、老化に伴う病気の予防活動を行っている。また、各地の敬老堂の高齢者を招いて無料の昼食提供や誕生日会などのイベントを開き、地域交流などを図ろうとしている。バート（2001）は「構造的な隙間論」のなかで、重複した関係が存在しないネットワークの構造、すなわち2つの間につながりが存在しない時、他人の関係を仲立ちしうる仲介者（broker）の役割がソーシャルキャピタルの形成に貢献すると論じている。この意味で「老人福祉館」は「人と人」・「人と集団」・「集団と集団」をつなげている点で、地域社会において「公助」として機能し、「橋渡し型ソーシャルキャピタル」形成に貢献していると思われる。一方、「敬老堂」の集まりは本島から離れている小島に自発的に形成され、地域の高齢者たちの集い場として高齢者の生活の大半を占めている。この敬老堂集まりは地域において高齢者達の小さな「共同体」であり、地域社会との関わりを待たせる「中間集団」でもある。また、利用する高齢者の間では互いに安否を確認し、困ったときには助け合う関係が形成された点では「セーフティネット」として機能していると言える。このように親密な関係や強い紐帯を特徴とする敬老堂は、地域社会において「互助」が行われる場として、「結束型ソーシャルキャピタル」の形成が目立つ。

今回の調査でわかるように、住民同士が自発的に行っているインフォーマルな安否確認の声かけや助けあいは、農漁村ならではの特徴であり高齢化社会を乗り越える強みになると考えられる。また、莞島郡の高齢者福祉施設の間に見られる橋渡し型と結束型ソーシャルキャピタルの形成と融合は、過疎地域の高齢者生活の改善に対する大きな示唆があると思われる。

#### 【重要参考文献】

金子勇（2011）『コミュニティの創造的探求——公共社会学の視点』新曜社。